

講師 片岡 均(日本歯科技工士会理事・日技認定講師)

演題

1部 「温故知新で探る歯科技工士の未来」

2部 「良質な欠損補綴治療を目指すためのコミュニケーション力」

抄録

日本では2018年、高齢者(65歳以上)の人口(3,557万人)は、総人口(12,042万人)の約29.5%でおよそ3.5人に1人が65歳以上となっています。

老年人口指数は今後も上昇を続け、2025年には生産年齢人口(15～64歳人口)のほぼ2人で1人の高齢者を支えることになると見込まれています。

増大する高齢者の欠損補綴を補う歯科技工士の仕事では、歯科技工士として志をしっかりと持った上で、インプラント技工やデンチャー技工を十分熟知することが益々重要になってきています。

歯科技工士にとって補綴装置を製作すること、それは日々技術を研鑽し努力することです。そして、勿論それが我々歯科技工士の使命でもあります。

歯科技工士は、咀嚼、嚥下、発音の機能回復、咬合、審美、そして周囲組織との調和、補綴装置の永続性などを考慮しながら患者さんの健康と幸福のために歯科技工に携わることが最も大切なことだと考えます。

歯科技工士に「気持ちの緩み」や「物事の本質」を理解できていなかったらどんなにCAD/CAM機器等が進歩したところで、それを扱う歯科技工士の学術的な知識と技術が無ければうまくいきません。機械がうまいのではなくそれを扱う歯科技工士がしっかりと本質をとらえて初めてうまくいくのです。

近年、デジタル化が進む歯科技工でアナログ技工の重要性が盛んに述べられるようになってきています。

一方で、国は「働き方改革」を進める中、歯科技工士の労働環境の改善は一向に前進していないのが現実です。私達がゆとりある歯科技工ライフを送ることで、しっかりと国民目線で考えることのできる歯科医療現場になり、患者さんからの信頼が得られるのではないのでしょうか。

そのことを踏まえたくえて、今回1部では、「温故知新で探る歯科技工士の未来」をテーマとし、様々な側面から掘り下げ、皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

そして2部では「良質な欠損補綴治療を目指すためのコミュニケーション力」についてお話しさせていただきます。

ぜひお付き合いください。